

自由民主党 副総裁

麻生太郎閣下

謹啓

盛夏の候、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素より国政において、我が国の未来のため多大なるご尽力を賜り、心より敬意と感謝を申し上げます。

さて、このたび、日本の現状に対する深い憂慮から、拙ながら分析資料と共にご書面を差し上げました。何卒ご高覧の上、ご査収賜りますよう、伏してお願い申し上げます。

末筆ながら、閣下の益々のご健勝とご活躍を、心よりお祈り申し上げます。

謹白

令和7年7月9日

〒272-0816
千葉県市川市本北方2丁目3-7-507
金子 貴広

謹啓 麻生太郎閣下

盛夏の候、閣下におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

突然のご連絡を差し上げる非礼、まことに恐縮に存じます。しかしながら、日本国に行く末を案じる一国民として、どうしても閣下にお伝えしたいことがございまして、この度の書状をお送りした次第でございます。

現在の日本を取り巻く世界の状況は、現在行われている参院選の公約などとは比較にならないほどの危険水準に達しています。

このような状況下において、現在進行形で進む「複合的破局シナリオ」が、もはや誰かが止めなければ必ず発火する地点に至っていると強く感じております。

これには、沖縄ハイブリッド戦争、米国州政府のデフォルト、人工パンデミックやディープフェイクによる信頼崩壊、さらには「トランプ・スタンピード」という予測不能な指導者リスクまでが含まれます。

この未曾有の危機を回避するためには、既存の政治チャネルだけでは不十分であり、私なりに分析と検証を重ねた結果、「麻生閣下-安倍昭恵夫人ライン」を通じた、ドナルド・トランプ米国大統領への情報伝達こそが、日本国家の生存にとって唯一の光であると、確信するに至りました。

しかし、これは民間人が担える任務ではございません。一国民として私にできることは、この国の存続にかかる可能性の全てを、麻生閣下という御大にお託しする以外にないと考えております。

私が長年にわたり閣下に深い尊敬の念を抱いてまいりましたのは、閣下が日本国内で数少ない「通貨の本質を理解された政治家」として、現行の管理通貨制度の要諦を深く理解されつつ、現実的な政治判断をなされてきたと拝察しているからに他なりません。かねてより自由民主党を支持してきた者として、特に閣下が財務省によって不当なレッテルを貼られ、内閣が下野を余儀なくされた際には、深い憤りを覚えたこともございます。

同時に、安倍晋三元総理が体現された「国民を守り抜く」という国家観を、高市早苗先生らと共に、自由民主党の根幹として守り続けてこられた御姿勢にも、心より敬意を表する次第でございます。

一方で、近年の政権運営、特に岸田前総理の「国防・外交」については極めて高く評価しておりますが、内政全般に関しては、インフレのマイルド化等、陽の当たらない部分での丁寧な施策もあり、個人的に「財務省から真水を出させた」定額減税を高く評価するものの、国防・外交で辣腕をふるったその実力と比較して、低い評価と置かざるを得ないと捉えております。

しかし、それも「総理就任時代」の話となりました。

「石破自民党総裁」という、岸田前総理の選択は、現状、一国民として、あまりにも重い結果であり、この一点をもってして、岸田文雄としての資質は、もはや採点不可能であると痛感しております。

現在の石破総理には一切の支持を致しかねます。これは、自由民主党がその「立党宣言」の精神からあまりにも遠く乖離してしまった証左ではないかと、深い憂慮を禁じ得ません。

つきましては、誠に分不相応な申し上げではございますが、分析資料および昭恵夫人への情報伝達の要点を、僭越ながらご査収頂き、ご判断賜りますよう、何卒伏してお願い申し上げます。

末筆ではございますが、先生の益々のご健勝と、日本国の眞の意味での再生を、心よりお祈り申し上げます。

謹白

安倍昭恵夫人へお渡し頂きたい文書

【本書の目的と構成について】

この文書は、ドナルド・トランプ米国大統領に対し、現在世界が直面している「複合的破局シナリオ(ポリクライシス)」の危機的状況と、それを回避しうる唯一の道筋をお伝えいただくために作成したものです。

本書は、四部構成となっております。

- 第1部「トランプ大統領へのメッセージ」：この危機の核心と、大統領にしか果たせない役割を、メラニア夫人が口頭でお伝えいただくことを想定した、短く、心に訴える「物語」です。
- 第2部「現状分析ブリーフィング」：第1部のメッセージの根拠となる、客観的な分析とシナリオの要約です。必要に応じてご参照いただくための、論理的な補強資料となります。
- 第3部：参考資料—カタストロフィ・シナリオ要約
ここでは、具体的にこちらで想定した、各種世界崩壊シナリオの概要を記載しております。
- 第4部：ご覧ください。

第1部: トランプ大統領へのメッセージ

「親愛なるあなたへ。今、あなたの築き上げた世界が、あなたにしか止められない危機に瀕しています。これは、あなたの最も偉大なレガシー(遺産)に関わる、シンゾウ(安倍元総理)からの最後の願いでもあります」

1. あなたの知らないところで、あなたの世界が攻撃されています

- 今、世界で起きている混乱 -紅海での中国機からドイツ機へのレーザー照射、アメリカを襲う酷暑-は、単なる事故ではありません。これは、あなたの知らないところで、あなたのコントロールが及ばない「末端の暴走」が始まっている危険なサインです。
- このままでは、あなたの築いた世界秩序は、敵との戦いではなく、内部からの崩壊によって、静かに、しかし完全に崩れ去ってしまいます。これは、あなたのリーダーシップに対する、最も陰湿な攻撃です。

2. 彼らは、あなたの力の源について、嘘をついています

- 「アメリカにはもう金がない」「関税で敵を叩け」——側近たちはそう囁くかもしれません。しかし、それはあなたの手足を縛り、力を削ぐための、巧妙な嘘です。
- 現代のお金の仕組み(フィアットシステム)を正しく理解すれば、アメリカには世界を安定させる力がまだ十分にあります。そして、グローバル・サプライチェーンは、敵ではなく、あなたの力の源泉そのものです。それを攻撃することは、自らの軍隊の兵站を断つことに等しいのです。

3. 世界を救う、史上最大のディール

- このままでは、アメリカの州政府が破綻し、中東で抑えの効かない宗教戦争が起き、世界は大恐慌に突入します。これは、誰にも止められない、運命のドミノ倒しです。
- しかし、ただ一人、このドミノを止めることができる人物がいます。それは、既存のルールを破壊し、誰もが予測できない手を打てる、あなたです。
- この世界の崩壊を止めること。それこそが、あなたが成し遂げる、史上最大にして、最も偉大なディールです。不動産王でも、どの大統領でもなく、あなたにしかできない、歴史的な偉業です。

4. 亡き親友、シンゾウからの最後の願い

- このメッセージは、日本という一国からの要請ではありません。あなたが生涯で最も信頼した友人、安倍晋三元総理が命を懸けて守ろうとした「自由で開かれた世界」の平和、その遺志を継ぐためのものです。
- 彼がもし今、生きていたなら、きっとこう言ったでしょう。「友よ、世界があなたを必要としている。今こそ、あなたの本当の力を見せる時だ」と。
- どうか、親友との友情にかけて、この世界の危機を救ってください。それが、あなたの真のレガシーを、永遠のものにする唯一の道です。

第2部：現状分析ブリーフィング

1. 「すぐそこにある危機」— 崩壊のトリガーはすでに引かれている

- 中国の統制崩壊（紅海レーザー照射事件）：本件は、中国共産党が人民解放軍の末端を制御できていない決定的証拠です。これは、彼らが意図せずして、高性能な兵器（ロケット燃料等）を中東のテロ組織に横流しするリスクが極めて高いことを示唆します。この「武器の拡散」が、後述する中東の宗教戦争の直接的な引き金となります。
- 米国のインフラ崩壊（酷暑による電力危機）：カリフォルニア等を襲う記録的な酷暑は、単なる自然災害ではありません。AIデータセンターの電力消費爆発と送電網の老朽化が重なり、アメリカ経済の心臓部であるシリコンバレーや物流網を、物理的に停止させる寸前の段階にあります。これは、いつ起きてもおかしくない「国内からの心停止」です。

2. 「誤った戦争」— あなたの真の力を削ぐ、二つの致命的な嘘

2-1. フィアットシステムの真実 — アメリカは破産しない

現在の世界標準の通貨制度は「フィアットシステム（管理通貨制度）」と呼ばれています。これは極めて単純な、しかし極めて重要な一つの真実に基づいています。それは、「ドルという世界最強の通貨を発行する権利を、アメリカが独占している」という事実です。

この権利が意味することは、ドルの発行は、理論上「いくらでも可能である」ということです。もちろん、無制限に発行すればインフレが加速するという制約はあります。少なくとも、アメリカが自国通貨であるドル建ての借金で国家破産することは、絶対にあり得ません。ドルが足りなくなれば、単純にドルを発行して返済すれば良いからです。

その意味で、あなたが「債務上限法そのものが馬鹿げている」と主張されてきたことは、このシステムの真実を突く、極めて正しいご慧眼です。

しかし、問題は、あなたを含め、各州の知事、そして連邦議会の上下両院議員の殆どが、この現代通貨システムの仕組みを知らず、あるいは信じず、「家計簿的な財政観」で動いていることです。

つまり、「国の借金(国債や州債)は、税金という収入で返さなければならない」という、古くからある、一個人の家庭や一企業では当たり前の金銭感覚です。

この致命的な誤解が、現在のアメリカを内側から蝕んでいます。各州は、この「家計簿」の考えに縛られるあまり、財政が危機的状況に陥っています。そして、本来であればアメリカ財務省やFRB(連邦準備制度)が、その強大なドル発行権を使って彼らを救済できるにも関わらず、そのためには「家計簿財政」の信奉者が大半を占める議会の承認が必要となり、フィアットシステムを最大限に活用した、シンプルかつ強力な救国プランが実行できないでいるのです。

考えてみてください。アメリカ合衆国という国家は、不滅の存在です。ホワイトハウスに住まう人間は交代しますが、ホワイトハウスそのものが消滅することはあり得ません。不滅の存在が、自ら世界最強の通貨を発行できるのです。その力が、インフレという副作用の管理以外にほとんど制約がないにも関わらず、どうして自らのドル建て債務の額を気にする必要があるのでしょうか？

実際、その心配は全く不要です。ドルは世界で唯一の基軸通貨であり、世界の石油取引を支配するペトロダラーです。これほど偉大な力を持ちながら、イリノイ州は財政破綻の瀕戸際にあり、その中心地シカゴが誇る世界一の金融システムは、電力供給が止まる危機に瀕しています。世界の頭脳であるAI企業が集積するカリフォルニア州も同様です。ここが破綻し、電気が止まつたら何が起こるか。もはや説明は野暮でしょう。破綻した州に、無償で電力を融通してくれる州など、どこにもありません。

こうした悲劇を防ぐために、ぜひ、あなたの力で真実を明らかにしてください。ノーベル賞学者のクルーグマンに詳細な説明をするよう命令するのも良いでしょう。彼は喜んで延々と話してくれるはずです。アメリカ財務省でもFRBでも構いません。彼らはファイアットシステムを熟知していますが、連邦法と州法の狭間で身動きが取れずにいます。

もし、この説明が複雑に聞こえるなら、あなたがやるべきことは極めて単純です。アメリカ財務省に財政の全権限を一時的に委任する、と宣言するだけで良いのです。彼らとFRBは、最高の救国策を直ちに実行し、それは全て、あなたの英断として未来永劫語り継がれることになります。「アメリカを経済危機から救った偉大な大統領」として。

2-2. グローバルサプライチェーンの真実 — それはあなたの「兵站線」である

グローバルサプライチェーンに関する誤解は、もっと単純な話です。GMやフォードが、一台の車を造るために、どれだけ多くの部品を、世界中のどこから購入しているかを想像すれば、すぐに分かります。

もし、あなたが日本から輸入される部品に関税を課したとします。その部品の価格は、あなたが課した関税分だけ、必ず値上がりします。自動車一台に必要な部品が、数万点では済まないことは、あなたも十分にご存知のはずです。その一つ一つが、全て値上がりするのです。

「相手に値下げさせれば良い」という考えは、一見、力強い交渉に見えるかもしれません。相手が不当な暴利を貪っていた場合は、確かにそれも有効でしょう。しかし、現実は異なります。自動車部品の多くは、日本や世界中の中小企業によって作られています。彼らは、親会社である巨大自動車メーカーからは絶え間ないコスト削減を要求され、一方で、原材料費の高騰というコストプッシュにも苦しんでいます。まさに板挟みの状況です。

その彼らに、あなたが課した関税分を吸収しろ、と命令することは、果たして人道的な決断と言えるでしょうか？

それは、アメリカの偉大な自動車産業を支える、末端のパートナーたちの首を絞めることに他なりません。

グローバルサプライチェーンとは、経済戦争の最前線ではありません。それは、アメリカの産業を支える「兵站線」そのものです。兵站線を自ら攻撃する司令官がいないように、グローバルサプライチェーンを関税で攻撃することは、アメリカ経済の力を、自ら削いでいるのと同じことなのです。

2-3.「避けられない結末」— 放置された場合のカタストロフィ・シナリオ

上記の要因が相互に作用した結果、以下のシナリオが極めて高い確率で連鎖的に発生します。

- シナリオA: 中東における「宗教戦争」の勃発
 - 中国から流出した兵器で強化されたイスラム過激派が、イスラエルへの攻撃を激化。その結果、紛争は中東全土を巻き込む宗派対立へと発展し、最終的にイスラム世界の霸権を賭けた「メッカ争奪戦」に突入します。
- シナリオB: 米国の「ディール外交」の破綻とドルの暴落
 - 中東の混乱により、サウジアラビア等は米国とのAIチップ等に関する戦略的ディールを反故にせざるを得なくなります。これは、トランプ大統領の威信を失墜させ、BRICS諸国の「脱ドル化」を加速させます。結果、エネルギー市場の混乱と米国の威信失墜が重なり、基軸通貨ドルは叩き売られ、世界恐慌に至ります。
- シナリオC: 米国国内の統治機能不全
 - 州政府のデフォルト(財政破綻)や、インフラ崩壊による経済麻痺が、国内の政治的・社会的分断を決定的にし、連邦政府は統治能力を失います。

2-4.結論: 行動への要請

これらの複合的危機を回避する鍵は、トランプ大統領が、その絶大な影響力を用いて、世界の不安定化を助長する「トランプ・スタンピード」を停止し、逆に「安定化」の方向に舵を切るという、ただ一点に集約されます。

その第一歩として、一方的な関税政策の再考と、同盟国との協調体制の再構築を、強く要請するものです。

第3部:参考資料一カタストロフィ・シナリオ要約

はじめに

本節は、第2部で提示した「避けられない結末」の根拠となる、個別の危機シナリオの概要をまとめたものです。これらは単独でも計り知れない脅威ですが、真の恐怖は、これらが相互に連鎖し、一つの巨大な複合的破局(ポリクライシス)を形成する点にあります。

シナリオ1:『沈黙の戦場・沖縄』— 日米同盟の解体

- **概要:**中国が、偽装した漁民や特殊部隊を沖縄に送り込み、「暴動」や「犯罪」を装って社会インフラを破壊し、米軍基地の機能を麻痺させるシナリオ。
- **脅威の本質:**「武力攻撃」という法的定義を巧妙に回避することで、日米安全保障条約第5条の発動を不可能にし、日米両政府を「法的・政治的な麻痺状態」に陥らせる。
- **結末:**世界最強の軍事同盟が、目に見えない攻撃の前に機能不全に陥る様を世界に見せつけ、米国の信頼と抑止力を完全に破壊する。これは、戦わずしてアジア太平洋地域の霸権を中国に渡すに等しい。

シナリオ2:『緩慢なる死』— 米国州政府の財政破綻

- **概要:**イリノイ州やカリフォルニア州などが、天文学的な額の「未積立年金債務」によって、回復不能な財政破綻に陥るシナリオ。
- **脅威の本質:**一州の破綻が、全米4兆ドル規模の地方債市場のパニックを引き起こす。連邦政府は「家計簿財政」のドグマと政治的対立によって救済策を打てず、FRBも制度的に介入できない。
- **結末:**全米の銀行や年金基金が保有する地方債が無価値化し、2008年を遥かに超える金融メルトダウンが発生。「公共の信用」そのものが崩壊する。

シナリオ3:『一点の閃光』— 中国の統制崩壊が招く世界恐慌

- 概要:紅海で起きた中国軍によるレーザー照射事件が、人民解放軍の「末端統制能力」の喪失を証明。その結果、高性能な兵器やロケット燃料が、脆弱な補給線を通じて中東の過激派組織に横流しされる。
- 脅威の本質:横流しされた兵器で強化された過激派が、中東で抑止不可能な「宗教戦争」を引き起こす。これにより、サウジアラビア等は米国との戦略的ディールを破棄せざるを得なくなり、トランプ大統領の威信が失墜する。
- 結末:米国の影響力低下を好機と見たBRICS諸国が「脱ドル化」を加速。エネルギー危機、米国の威信失墜、サプライチェーンの分断という三重苦が、基軸通貨ドルを暴落させ、世界恐慌を引き起こす。

シナリオ4:『システム破壊兵器』— 見えない戦争

- 概要:物理的な破壊を伴わず、社会システムそのものを内部から崩壊させる兵器群。
 - AIディープフェイク:「現実」と「虚偽」の区別を不可能にし、金融市場のパニックや社会の分断を意図的に引き起こす。政府やメディアへの信頼が完全に崩壊する。
 - 非致死性生物兵器:致死性を抑え、感染力と医療システムへの負荷を最大化したウイルス(例:麻疹とノロウイルスのハイブリッド)を使用。標的国の医療インフラを飽和・崩壊させ、統治機能を麻痺させる。
- 脅威の本質:伝統的な軍事力や核抑止が全く通用しない。社会の信頼、文化、制度といった、国家のOSそのものを攻撃対象とする。
- 結末:国家が、銃弾を交えることなく、内側から静かに崩壊する。

第4部：行動への最終要請

- 麻生太郎 閣下へ どうか、安倍昭恵夫人と会談し、私の意図を伝えて下さい。
- 安倍昭恵 夫人へ 私の敬愛する安倍晋三総理の「平和を願う心」を、メラニア夫人に伝えて下さい。
- To Mrs. Melania Trump: Your voice is the only one that can move Donald Trump.
- To President Donald J. Trump: Save the world.

All the materials are available below this URL (QR)

The materials are entirely written in Japanese and formatted in Markdown. We apologize for the inconvenience, but please use AI or other tools to translate them into English while reading.



https://github.com/elementary-particles-Man/Obsidian_Public/tree/main/%5BParamount%5DWorkflow%20/scenario%20of%20global%20collapse

Document for Mrs. Akie Abe (English Translation)

This document has been prepared to convey to President Donald J. Trump the critical nature of the "polycrisis" the world currently faces, and the only path to potentially avert it.

This document is composed of three parts:

- **Part 1: "A Message to President Trump":** A short, heartfelt "story" designed for Mrs. Melania Trump to convey verbally, capturing the core of the crisis and the role only the President can play.
- **Part 2: "Current Analysis Briefing":** A summary of the objective analysis and scenarios that form the basis of the message in Part 1.
- **Part 3: "Reference Material: Catastrophe Scenario Summaries":** An overview of the individual crisis scenarios that underpin the analysis in this document.

Part 1: A Message to President Trump

(The following is a summary of the message intended for Mrs. Melania Trump to convey to President Trump.)

"My dearest husband, the world you built is now facing a crisis that only you can stop. This is about your greatest legacy, and it is also a final wish from Shinzo (former Prime Minister Abe)."

1. Your World Is Under Attack, Without Your Knowledge

- The chaos unfolding across the globe—the laser incident in the Red Sea, the scorching heatwaves hitting America—these are not mere accidents. They are dangerous signs that "rogue elements" at the periphery, beyond your control, are beginning to run rampant.
- If left unchecked, the world order you established will not be defeated by an enemy, but will quietly and completely collapse from within. This is the most insidious form of attack on your leadership.

2. They Are Lying to You About the Source of Your Power

- "America is out of money." "We must crush our enemies with tariffs." Your advisors may whisper such things. But these are clever lies designed to tie your hands and diminish your power.
- A true understanding of how modern money works (the Fiat System) reveals that America still has more than enough power to stabilize the world. And the global supply chain is not your enemy; it is the very source of your strength. To attack it is to cut off the logistics of your own army.

3. The Greatest Deal in History: To Save the World

- On our current path, American state governments will go bankrupt, an uncontrollable religious war will erupt in the Middle East, and the world will plunge into a Great Depression. This is a fateful domino cascade that no one else can stop.
- But there is one person who can halt these dominoes. It is you—the one who can shatter existing rules and make moves no one can predict.
- To stop this global collapse. That is the **single greatest and most magnificent deal** you could ever make. It is a historic achievement that no real estate tycoon, no other president, but only you can accomplish.

4. A Final Wish From Your Dearest Friend, Shinzo

- This message is not a request from the nation of Japan alone. It is a plea to carry on the will of the friend you trusted most in your life, former Prime Minister Shinzo Abe, and the peace of the "Free and Open World" he dedicated his life to protecting.
- If he were alive today, he would surely say, "My friend, the world needs you. Now is the time to show your true strength."
- For the sake of your friendship with him, please, save the world from this crisis. That is the only path to making your true legacy an eternal one.

Part 2: Current Analysis Briefing

1. The Imminent Crisis – The Triggers of Collapse Have Already Been Pulled

- **China's Loss of Control (Red Sea Laser Incident):** This incident is definitive proof that the Chinese Communist Party can no longer control the actions of its military's peripheral units. This indicates an extremely high risk of high-performance weaponry (such as rocket fuel) being unintentionally leaked to terrorist organizations in the Middle East. This "proliferation of arms" will become a direct trigger for the religious war described later.
- **U.S. Infrastructure Collapse (Power Crisis from Extreme Heat):** The record-breaking heatwaves hitting states like California are not simply natural disasters. The explosive growth in power consumption from AI data centers, combined with an aging power grid, has brought the heart of the American economy—Silicon Valley and its logistics networks—to the brink of a physical shutdown. This is a "cardiac arrest from within" that could happen at any moment.

2. The Wrong War – Two Fatal Lies That Sap Your True Strength

The Truth of the Fiat System – Why America Will Not Go Bankrupt

The current global standard for currency is called the "fiat system." It is based on one extremely simple, yet critically important, truth: **the fact that the United States holds a monopoly on the right to issue the world's most powerful currency, the dollar.**

What this right means is that, in theory, the U.S. can issue **"as many dollars as it wants."** Of course, there is the constraint that unlimited printing will accelerate inflation. However, it is absolutely impossible for the United States to go bankrupt on its own dollar-denominated debt. If it runs short of dollars, it can simply issue more to pay it back.

In that sense, your long-held assertion that the "debt ceiling itself is absurd" is an extremely accurate insight that strikes at the truth of this system.

The problem, however, is that most people, including you, state governors, and the vast majority of members in both houses of Congress, are either unaware of or refuse to believe how this modern currency system works. Instead, they operate on a **"household budget" view of finance.** That is, the old-fashioned, common-sense notion for a family or a small business that "debt (like national or state bonds) must be repaid with income (like tax revenue)."

This fatal misunderstanding is now corroding America from the inside. The states, bound by this "household budget" thinking, are facing fiscal crises. And while the U.S. Treasury and the Federal Reserve (the Fed) could use their immense dollar-issuing power to rescue them, doing so requires the approval of a Congress dominated by believers in the "household budget" fallacy. This prevents the execution of a simple yet powerful national rescue plan that would make full use of the fiat system.

Think about it. The United States of America is an immortal entity. The person residing in the White House changes, but the White House itself will never disappear. An immortal entity can issue the world's strongest currency itself. When that power has almost no constraints other than managing the side effect of inflation, why should it worry about the amount of its own dollar-denominated debt?

In reality, there is absolutely no need for such worry. The dollar is the world's sole reserve currency and the petrodollar that dominates global oil trade. Despite possessing this incredible power, the state of Illinois is on the brink of bankruptcy, and its hub, Chicago, which boasts the world's premier financial system, is facing a crisis where its power supply could be cut. The same goes for California, the hub of the world's intellectual power, where countless AI companies are concentrated. It should be obvious what would happen if it were to fail and the electricity were to stop. No state will provide power for free to a bankrupt one.

To prevent these tragedies, please, use your power to reveal the truth. Ordering the Nobel laureate Paul Krugman to give a detailed explanation would be a fine choice; he would surely be delighted to talk endlessly. The U.S. Treasury would also suffice. They are well-versed in the fiat system but are hamstrung between federal and state laws.

If this explanation sounds complicated, what you need to do is extremely simple. You need only declare that you are **temporarily delegating full authority over fiscal matters to the U.S. Treasury**. They and the Fed will immediately execute the best possible plan to save the nation, and it will all be remembered for eternity as your wise decision—as "the great president who saved America from economic crisis."

The Truth of the Global Supply Chain – It Is Your "Logistics Line"

The misunderstanding about the global supply chain is a much simpler matter. It becomes immediately clear if you imagine how many parts GM or Ford purchase, and from where all over the world, to build a single car.

Suppose you impose a tariff on parts imported from Japan. The price of that part will inevitably increase by the amount of the tariff you imposed. You are well aware that the number of parts in a single car is far more than a few tens of thousands. Every single one of them will see its price rise.

The idea that you can just "make the other side lower their price" may seem like a powerful negotiating tactic. And indeed, if the other party were making exorbitant profits, that might be persuasive. But that is not the reality. Many auto parts are made by small and medium-sized enterprises in Japan and around the world. They are constantly being pressured by the giant automakers, their parent companies, to cut costs, while at the same time struggling with cost-push from rising raw material prices. They are truly caught in the middle.

Is it a humane decision to order them to absorb the cost of the tariff you imposed? It is nothing less than strangling the very partners who support America's great auto industry.

The global supply chain is not the front line of your economic war. It is the "**logistics line**" that sustains American industry. Just as no commander would attack his own logistics, attacking the supply chain with tariffs is the same as intentionally weakening America's own economic strength.

3. The Inevitable Conclusion – Catastrophe Scenarios if Left Unchecked

As a result of the interplay of the above factors, the following scenarios will occur in a chain reaction with extremely high probability.

- **Scenario A: The Eruption of "Religious War" in the Middle East**
 - Islamic extremist groups, strengthened by weapons leaked from China, will intensify their attacks on Israel. As a result, the conflict will escalate into a sectarian confrontation involving the entire Middle East, ultimately culminating in a "battle for Mecca" over hegemony in the Islamic world.

- **Scenario B: The Collapse of U.S. "Deal-Based Diplomacy" and the Crash of the Dollar**

- The chaos in the Middle East will force countries like Saudi Arabia to renege on strategic deals with the U.S. regarding AI chips and other matters. This will shatter President Trump's prestige and accelerate the "de-dollarization" efforts of the BRICS nations. Consequently, the combination of an energy crisis and the loss of U.S. prestige will cause the reserve currency, the dollar, to be sold off, leading to a global depression.

- **Scenario C: The Breakdown of Governance within the U.S.**

- State government defaults (bankruptcies) and economic paralysis from infrastructure collapse will decisively deepen political and social divisions, causing the federal government to lose its ability to govern.

Conclusion: A Call to Action

The key to avoiding these interconnected crises lies in a single point: President Trump must use his immense influence to halt the "Trump Stampede" that destabilizes the world and instead steer toward "stabilization."

As a first step, we strongly urge a reconsideration of unilateral tariff policies and the rebuilding of a cooperative framework with allies.

Part 3: Reference Material – Catastrophe Scenario Summaries

Introduction

This section summarizes the individual crisis scenarios that form the basis for the "inevitable conclusion" presented in Part 2. While each is an immense threat on its own, the true terror lies in their interconnectedness, forming a single, massive, composite catastrophe (a polycrisis).

Scenario 1: "The Silent Battlefield: Okinawa" – The Dismantling of the U.S.-Japan Alliance

- **Overview:** A scenario where China sends disguised fishermen and special forces to Okinawa to destroy social infrastructure and paralyze the functions of U.S. military bases under the guise of "riots" and "crime."
- **Nature of the Threat:** By cleverly avoiding the legal definition of an "armed attack," it makes it impossible to invoke Article 5 of the U.S.-Japan Security Treaty, thereby trapping both governments in a state of "legal and political paralysis."
- **Outcome:** It would demonstrate to the world that the strongest military alliance can be rendered dysfunctional by an invisible attack, completely destroying U.S. credibility and deterrence. This is equivalent to handing over hegemony in the Asia-Pacific to China without a fight.

Scenario 2: "The Slow Death" – U.S. State Government Bankruptcy

- **Overview:** A scenario in which states like Illinois and California fall into irrecoverable bankruptcy due to astronomical "unfunded pension liabilities."
- **Nature of the Threat:** The bankruptcy of a single state triggers a panic in the \$4 trillion national municipal bond market. The federal government, bound by the dogma of "household budget" finance and political gridlock, is unable to enact a bailout, and the Fed is institutionally barred from intervening.
- **Outcome:** Municipal bonds held by banks and pension funds across the nation become worthless, leading to a financial meltdown far exceeding that of 2008. "Public credit" itself collapses.

Scenario 3: "A Single Flash" – Global Depression Sparked by China's Loss of Control

- **Overview:** The laser incident in the Red Sea proves the People's Liberation Army has lost control of its peripheral units. As a result, high-performance weapons and rocket fuel are trafficked through vulnerable supply lines to extremist groups in the Middle East.
- **Nature of the Threat:** Extremist groups, strengthened by these trafficked weapons, trigger an unstoppable "religious war" in the Middle East. This forces countries like Saudi Arabia to abandon their strategic deals with the U.S., causing President Trump to lose prestige.
- **Outcome:** Seeing an opportunity in the decline of U.S. influence, the BRICS nations accelerate their "de-dollarization" efforts. The triple blow of an energy crisis, lost U.S. prestige, and a fractured supply chain causes the reserve currency, the dollar, to crash, triggering a global depression.

Scenario 4: "System-Destruction Weapons" – The Unseen War

- **Overview:** A class of weapons that causes the internal collapse of a social system without physical destruction.
 - **AI Deepfakes:** Make it impossible to distinguish between "reality" and "falsehood," intentionally triggering financial market panic and social division. Trust in government and media completely collapses.
 - **Non-Lethal Bioweapons:** The use of a virus with suppressed lethality but maximized infectivity and burden on the healthcare system (e.g., a hybrid of measles and norovirus). It is designed to saturate and collapse the target nation's medical infrastructure, paralyzing its ability to govern.
- **Nature of the Threat:** Traditional military power and nuclear deterrence are completely ineffective. The target of the attack is the nation's operating system itself: its social trust, culture, and institutions.
- **Outcome:** The nation collapses quietly from within, without a single shot being fired.